



▲「花夢」は今年3月にLED化を完了、国内に一つしかないシンボルのからくりオルガンが来館者を迎える



▲道の駅「フラワーパーク花夢」はその名の通り4月から四季折々の花観賞を楽しめる。施設内にある村のイメージキャラクター「セトウシくん」の顔はめパネルで写真を撮る人も多い



▲上興部地区のバス待合所



▲役場近くのバス待合所



▲西興部小学校



▲西興部中学校



▲老人福祉センター



▲生活改善センター



▲上興部地区の消防庁舎分署



▲役場近くの消防庁舎

24年度に16施設を実施する。すでに完了した施設では「ガラッと変わった」、「一気に明るくなった」という村民の声が聞かれ、電気料金の削減に加えて、快適性を大きく高める効果も生んでいるようだ。

「数値として効果が表れるのはもう少し先になるでしょうが、村では数年前に蛾の大量発生により街路灯をすべてLEDに変えました。それによって蛾が寄りつかなくなり、電気料金も大きく削減できたので、同様の効果を

期待しています」（菊池博村長）  
あかりみらいは北海道だけでなく42市町村のLED化を実施し、蛍光灯の製造と輸出入が禁止される全国の2027年問題の解決に奮闘している。

村長室もLED化したことで「雰囲気が変わりましたね」と菊池博村長



# あかりみらいがコンサルティング 西興部村28公共施設 2カ年でLED化進行中

2022年に道内で初めて「交通事故死ゼロ1万日」を達成し、現在も継続中のオホーツク管内西興部村。全国的にも珍しいイメージカラーを持つ村で、公共施設の壁は



▲「交通事故死ゼロ30年」を当面の目標にしている

オレンジ、屋根は緑に統一して独特の美しい景観を生み出している。その公共施設のLED化工事を23年度と24年度の2カ年で進めている。



▲役場ロビーのシャンデリアもLED化した

西興部村でLED化するのは小中学校や消防庁舎、老人福祉センター、道の駅「フラワーパーク花夢」など28施設。人口は道内で3番目に少ないが、それゆえに住民の生活に各公共施設が果たす役割は大きい。工事は23年度に12施設、

LED化は、プロポーザルによって選ばれたあかりみらい（本社・札幌市、越智文雄社長）のコンサルティングでリース方式を活用している。自治体の全施設を一気にLED化するとすると、大きな費用を予算化しなくてはならないが、リース方式だと長期分割が可能。LED化によって生まれる電気料金の削減額がリース分割額を上回るため、新たな財源を福祉や教育対策に充てられるメリットもある。